

精神障害リハビリテーション論

問題 37 次の記述のうち、精神障害リハビリテーションにおける資源のアセスメントに関する内容として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 利用者の職場実習を行い、職業能力を評価する。
- 2 利用者のニーズと社会資源を結び付ける。
- 3 既存の社会資源を利用者が使いやすいように調整する。
- 4 利用者を取り巻く環境の情報を収集し、分析する。
- 5 地域に就労支援機関がないので、行政機関に設置を働きかける。

問題 38 次の記述のうち、I P S (Individual Placement and Support) モデルの特徴として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 福祉的就労から始め、一般就労へのステップアップを目指す。
- 2 援助対象者の決定は、職業能力評価の結果に基づく。
- 3 支援は、一般就労した時点で終了となる。
- 4 就労先は、対象者の障害特性や職業能力に合わせて選定する。
- 5 就労支援と共に経済的側面に関する相談支援も行う。

問題 39 2週間前に3度目の入院をしてきたアルコール依存症のAさん(35歳, 男性)が, 依存症病棟に勤務するB精神保健福祉士に「昨日の依存症プログラムに参加して, 今度こそは断酒を頑張ってみようと思っている。今まで仕事のストレスを紛らすために飲酒を繰り返し, 仕事にも支障が出て, 何度も会社から注意を受けたがやめられなくて, 結局解雇されてしまった。本当に情けない。これまで何度も断酒しようとしては失敗しているから, 自分には断酒できないのではないかと不安になる。こんな自分を妻はいつも心配し見守ってくれているが, これ以上妻に心配や迷惑をかけたくない。だから, 今度こそは」と話した。そこで後日, B精神保健福祉士は, Aさんの断酒に向けた動機を強化するための面接を行うことにした。

次の記述のうち, 面接での対応として, **適切なものを1つ**選びなさい。

- 1 断酒ができた後の配偶者との生活について想像することを促す。
- 2 このままだと配偶者からも見放されるかもしれないので, 断酒は必要であると助言する。
- 3 今までの生活について簡潔にまとめ, 一緒に飲酒による失敗経験を可視化する。
- 4 退院後の就職活動のために, 今からできることを一緒に考えようと提案する。
- 5 飲酒をしなくなったら, 散歩などで体を動かして気分を変えることを提案する。

(精神障害リハビリテーション論・事例問題)

次の事例を読んで、問題 40 から問題 42 までについて答えなさい。

〔事例〕

大学1年生のAさん(18歳, 男性)は, 前期の成績で多くの単位を落としてしまった。成績を見た母親が大学に相談したところ, 学生支援室を紹介された。数日後, Aさんと母親は学生支援室のキャンパスソーシャルワーカーであるB精神保健福祉士(以下「Bワーカー」という。)の元を訪れ, 面談した。母親は「Aは, 小学校入学後に落ち着きの無さが目立ち, 専門医の受診を勧められ, 発達障害と診断された。高校までは学校側に発達障害を伝え, 教員のサポートを受けて大きな問題は生じずに卒業できた。大学ではこれまでのようなサポートを申請するか迷っていた」と話した。Bワーカーは, 本学には障害学生支援制度(以下「支援制度」という。)があり, これまでも支援制度を利用している学生が居ることなどを説明すると, Aさんと母親は安心して申請を希望した。面談後, Bワーカーは発達障害がある学生が大学に相談に来ることも増えてきたことを踏まえ, 今後大学として改めて取り組むべき事柄を, 大学に提案した。(問題 40)

AさんとBワーカーは支援制度の申請に向けて面談を重ねた。Aさんは, 自分の発達障害について詳しいことは理解できていないとのことだった。そこでBワーカーは, 支援制度の申請と共に, 学生支援室が後期に心理教育プログラムとして月1回の全6回シリーズで行う「発達障害についての学習会(以下「学習会」という。)」への参加を勧めた。(問題 41)

その後, Aさんは支援制度を受けることになり, 2年生時には単位を取得できるようになった。また, Bワーカーとの面談時に「半年にわたる学習会に参加して, 自分のつらさを分かり合える仲間が居て, 自分は一人ではないと実感でき, とてもうれしかった。自分のように困っている学生が学内で孤立しなくなる方法はないか, 発達障害についてみんなに知ってもらうにはどうすれば良いか」と話した。そこで学習会の仲間と一緒に今度の大学祭で「発達障害のことを知ろう」という発表会の企画を開催することにした。(問題 42)

問題 40 次の記述のうち、B ワーカーが大学へ提案した内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 発達障害がある学生専用の学生寮を設置する。
- 2 発達障害がある学生に選択させるための合理的配慮内容のリストを前もって用意する。
- 3 教職員全員に向けて発達障害についての研修会を実施する。
- 4 障害の程度によって、単位認定基準を緩和することとする。
- 5 本人及び保護者以外の誰からでも支援制度の申請を可能にする。

問題 41 次の記述のうち、この学習会の目的と方法として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 これまでの問題や困難の原因は環境要因でないことを理解する。
- 2 支援者の援助方針に従うことで問題解決が進むことを強調する。
- 3 発達障害の概念を専門的な用語を用いて説明する。
- 4 参加者同士の交流を学習会以外で行わないように注意する。
- 5 参加者がこれまでの生活でうまく対処できた点に着目する。

問題 42 次のうち、A さんたちが大学祭で企画した活動として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 アドボカシー
- 2 普及啓発
- 3 リカバリーカレッジ
- 4 多職種連携
- 5 特別支援教育